

はあとふる

地域の皆さんに、心(Heart)と技術(Hands)でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌



「去年今年（こぞ、ことし） 貫く棒のようなもの」

大晦日から元旦の区切りは、変わらず流れる時刻みの「つ」でありながら、

誰もが特殊な意味合いを持つて受け止めます。そこにおいても変わることのない骨太の魂を訴えかける高浜虚子の有名な句です。

皆さま、明けましておめでとうございます。

はあとふるグループを「貫く棒のようなもの」は何だろうかと改めて思います。

はあとふるグループを「貫く棒のようなもの」ヘルスケアへの思いを支え、風化することなく、確固として保ち続けることができるもの、グループの使命・理念はこれに相当するものと考えています。

抽象的な概念を形のある「貫く棒」にするには、地域の方々に

「本物のケアを本気で創造し提供する」

しかないと考えています。

今年もスタッフ全員で取り組んで参ります。

今後ともご理解の上、ご指導、ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

はあとふるグループ代表 島田永和



島田病院、八尾はあとふる病院は
「病院機能評価認定病院」です。

はあとふる グループ

医療法人(財団) 永広会
社会福祉法人 はあとふる



—神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマネージャー 平尾 誠二氏の特別講演—

『第11回 スポーツ選手・指導者交流会』開催

平成16年10月23日(土)大阪全日空ホテルにて

島田病院をはじめはあとふるグループをご利用いただいている患者様、スポーツ選手・愛好家、学校や企業のスポーツ指導者を合わせ83名の方々にご参加いただきました。

今回は、特別講師として元ラグビー日本代表監督で、現神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマネージャーの平尾 誠二氏をお迎えし、「チームメイクにおけるマネジメントとコーチング」というテーマでお話をいただきました。チームを構築する上で、「明確なビジョン」、「現状の分析」が必要であり、流行や固定観念に左右されずチームに必要なものを取り入れる事が重要であると強調されました。

参加者からの「選手の個性を知ることが大切と言わっていたが、選手と接する時に意識していることは?」という質問に対し、「まず選手の存在を認めること。チーム内での役割を理解させることが必要」という返答が印象的で、選手個々の個性や能力を最大限に生かしたチームマネジメント、コーチングを行う平尾氏の考えがあらわれていました。



島田病院の管理栄養士 角野 章子です。「現場で使えるスポーツ栄養学」について講演しました。疲労回復にはパン・牛乳・バナナだけでもよいので練習の後30分以内にエネルギー補給をしてください。スポーツ栄養指導の個別相談も承ります。

その後の懇親会でも、参加者と当院スタッフの間で活発な意見交換が行われました。スポーツ整形外科では、医療従事者がしっかり情報を提供し、選手と選手を支える指導者やご家族と共に治療プロセスの選択をしていくことが大切です。参加者の方々の熱い思いを支援するために、私たちは、骨や靱帯などをしっかり修復するという医療技術を基本に、医療リハビリテーションやアスレチックトレーニングで早期スポーツ復帰を実現するための努力を重ねなくてはと改めて認識しました。

「個性を生かした的確なパスやキックやスクラムとメンバーの信頼関係でトライをものにする」そんな強いラグビーチームのような整形チームになれるように技と人間力を磨いていきます。

スポーツ選手・指導者交流会事務局



島田病院の整形外科医長 松浦 健司です。高校ラグビー選手がケガをした際の手術から復帰まで、早期スポーツ復帰に向けた積極的な取り組みについて報告しました。私自身もラガーマンなので憧れの平尾さんに会えて、むっちゃ嬉しかったです。

『地域住民の方々と楽しく交流しました!』

はあとふるフェスタ2004 開催

平成16年10月31日(日)八尾はあとふる病院

10月31日(日)八尾はあとふる病院で、「はあとふるフェスタ2004」を開催しました。

当日は、雨も心配される中、病院の周辺住民の方々、当院の入院患者様並びにそのご家族など、約140名という多数の方々にご参加いただきました。

今回のイベントは、八尾はあとふる病院地域交流委員会活動の一環として、地域住民の方々と病院スタッフとのより深い交流を図ることを目的に開催しました。

準備にあたっては、今回がはじめてのイベント開催となるので、実行委員会を立ち上げ、院内から選出された実行委員を中心に、参加された方々が楽しめる催し物ができるよう試行錯誤しながら検討を重ね、盛りだくさんの内容を企画しました。

子ども達からは「バルーンアートうれしかった」「着ぐるみの人がいて良かった」といった声をいただき、家族連れの方からは、相談コーナーへ参加して「健康診断をしていただき隠れ肥満に気づいて良かった」といった感想が寄せられました。

また、「催し物がいっぱいあって楽しかった」「退屈なく一日過ごせた」などとの声もいただき、ご来場者の方と催し物を通じて、交流を深めながら、有意義な一日を過ごすことができました。

イベント開催が「地域住民の方々と病院との接点」として、地域交流の大きな一步になりました。今後もいろんな機会を利用し、地域住民の方にとって垣根のない病院づくりを目指していきたいと思っています。

八尾はあとふる病院 地域交流委員会 尾本 幸一



- 「リハビリのポスターの展示」「福祉用具の展示」など病院の活動紹介
- 「ヨガ、気功、転倒予防」「看護、介護、栄養相談」「感染予防」などの体験コーナー
- 地域でお馴染みの八老劇団による演劇
- 「バザー」「ゲーム(輪投げ、ヨーヨー)」「抽選会」「バルーンアート」「健康クイズ」コーナー～etc.

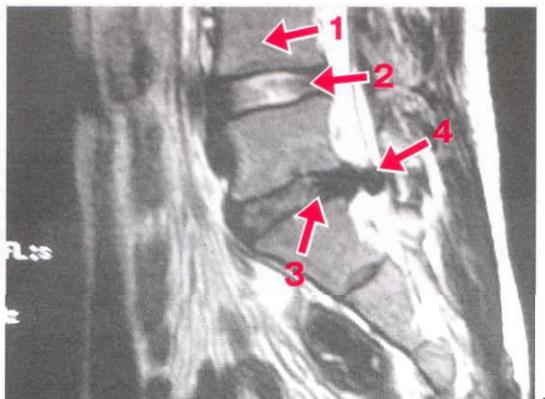
読んで学ぼう

整形外科の まめ知識 9

つい かん ばん 椎間板ヘルニア

島田病院 整形外科医長 金 国一

重いものを持った拍子に急に「ぎくっ」と腰が痛くなり、その後おしりや太もも、ふくらはぎのあたりも痛くなったりしごれたりします。知らないうちに痛み出したり、足だけが痛むこともあります。姿勢により痛みが変化するため、自由に身動きできなくなります。これが、「腰椎椎間板ヘルニア」の典型的な症状です。下のMRI写真(写真①)で四角く映っているのが骨(腰椎)(矢印1)で、骨と骨の間にある長方形の組織が椎間板でクッションの役割をしています。健康な椎間板(矢印2)は、白く映りますが、ストレスがかかって傷んくると黒く映ります(矢印3)。また、椎間板の硬い袋の部分に亀裂が入ると、内部の柔らかい組織がとび出します(矢印4)。下のMRI写真で椎間板の右側の丸いふくらみがヘルニアです。



(写真①)

ヘルニアは、姿勢の変化で微妙に動き、神経を圧迫します。神経にとっては、「ボコン!ボコン!」と殴られたようになります。少し姿勢を変えるだけで「ズキン!ズキン!」と痛みます。圧迫が著しい場合は、あしが動きにくくなったり(麻痺)、小便^{まひ}や大便が出にくくなったりします(膀胱直腸麻痺)。

麻痺がひどい場合は、できるだけ早く手術をしてヘルニアを除去すべきですが、麻痺がひどくないときは痛みを和らげる治療を行います。一番よく効くのが、「硬膜外ブロック」という注射です。これは、ヘルニアや神経の周りに炎症を和らげる薬(ステロイドホルモン)や痛みをとる薬(麻酔薬)を注入します。これを1~4回程度受けますと、8割方は痛みがとれます。痛みがそれほど強くないときは、痛み止めの薬を飲んだり、安静にしていると徐々に痛みがとれてき

ます。小さなヘルニアは、時間が経過すると、だんだん固まってくるため、姿勢を変えたり、運動したりしても痛まなくなってしまいます。その間、生活や仕事、スポーツは、できるだけ無理をしないようにする配慮が必要です。

大切なのは、痛みがとれたあとに、きちんとリハビリを受けることです。ヘルニアになるのは、「身体が硬いままで放っていた」とか、「背骨を支える筋肉(主に腹筋)が弱い」などの原因があります。これらを改善しないで、元の仕事やスポーツを再開すると、痛みやしごれが再発しやすいので、十分にストレッチやトレーニングを行い、仕事やスポーツに負けない体力を獲得してから復帰する事が望ましいのです。

ヘルニアや腰痛にならないためには、

- 1) 仕事中、同じ姿勢を続けない。
- 2) 最低週1回は、汗をかくような全身運動をする。
- 3) ストレッチを朝、晩5分程度行って身体をほぐす。

をおこなって下さい。

麻痺がひどい場合、硬膜外ブロックを受けても痛みがとれない場合は、手術を行います。当院でも、昨年1年間で40名の方が、手術を受けられました。手術は、神経や血管を傷つけないよう安全に配慮し、手術用顕微鏡を使って行いますので、合併症が非常に少なく、安心して受けて頂けます。また、12月から内視鏡の器械が導入され、より小さな切開で手術ができるようになりました。(写真②)今まで4cm切開していたのが、1.5cmですみます。入院期間も2週間を要していたのが、1週間程度に短縮できます。



(写真②)
内視鏡下椎間板摘出術(MED法)

島田病院の手術実績について

島田病院とEudynamicsはびきのヴィゴラス（疾病予防施設）は、オリンピック選手の所属する団体やプロスポーツ選手チーム、社会人スポーツ団体、学校のクラブ活動等のサポートを行っています。島田病院の初診患者数のうちスポーツ選手数が24%を占めています（図）。トップアスリートをはじめとしたスポーツ選手への関わりが、当院の診療の考え方には大きな影響を及ぼしています。それは、ケガを治すだけでなく、いかに早く確実に元の生活及びスポーツ復帰ができるかということです。

スポーツ選手による初診患者数の割合（平成14年4月～平成16年9月まで）



入院手術件数 (件)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度(9月まで)
骨折手術	218	258	107
前十字靱帯断裂形成術	56	74	26
半月板切除術	57	38	11
椎間板ヘルニア摘出術	40	42	19
肩関節手術	19	16	18
人工膝関節置換術	16	18	8
人工股関節置換術	6	12	7
関節形成術(骨軟骨移植等)	3	12	14
その他	309	238	125
合計	724	708	335

島田病院の平成14年4月から平成16年9月までの主要な入院手術件数とその推移を表に示しています（外来手術は除く）。スポーツ選手に比較的多い手術は前十字靱帯断裂形成術（ACL）、半月板切除術、ヘルニア手術、肩関節手術等があげられます。ACLは平成11年より、肩関節手術は平成15年より内視鏡手術を行っています。内視鏡で手術を行う利点は、手術創が小さく体に負担の少ない低侵襲性の手術なので、術後の痛みは少なく、筋肉の機能を低下させることも少なく、早期にスポーツや日常生活への復帰が可能です。このような鏡視下手術を『膝』と『肩』に続き、平成16年からは『腰』の椎間板ヘルニア摘出術にも導入しはじめました。

今後もスポーツ選手の方だけでなく、患者さまお一人お一人に対し最新で最良の医療・手術が提供できるよう努力して参ります。

手術実績、各医師の専門分野紹介などに関しましては、ホームページ(<http://www.heartful-health.or.jp>)をご覧下さい。

当院への受診や手術に関しましては地域連携課までご相談下さい。

地域連携課 リーダー 嶋田 芳彦



一人一人に十分なインフォームドコンセントを行う為に
待ち時間が長くなることがありますので、診察の際には是非ご予約をお取り下さい。

予約専用電話 **0729-53-1051**

予約受付時間
月・火・水・金曜日 9:00～12:00 16:00～19:00
木曜日 9:00～12:00
土曜日 9:00～15:30

Topics トピックス

『はあと＆はんず学会』

“はあとふるグループ”では職員の学習を深める場として毎年、院内学会を開催しています。本年も11月21日(日曜日)、紅葉舞う秋晴れの中、羽曳野市内、四天王寺国際仏教大学大講堂にて第13回はあと＆はんずアカデミーが開催されました。島田病院・八尾はあとふる病院・羽曳野介護エリアの各部署から職員約250名近くの参加がありました。今回の学会テーマは「安全と安心に貢献する」と題し、口述発表26題、ポスター発表5題と合計31題の発表がありました。利用者様・患者様のよいよりケアについて日々どの様にふれあいを持ち、また職員同士が如何に対話を持ちつつ、より質の高いケアの提供に繋げられるかを学会という場で語り合いができたように思います。今後も“はあとふるグループ”

が良質のサービスを効率的に提供するためにも、さらによりよい学会作りを行っていきたいと思います。



第13回はあと＆はんずアカデミー
学長 中村恵里子

平成16年10月16日(土)
(LICはびきのにて)

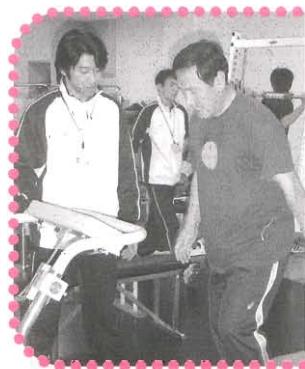
『第3回 整形外科地域機能連携をすすめる会』

『整形外科地域機能連携をすすめる会』は、南河内圏域における整形外科診療の機能連携をすすめる事を目的とした集まりで、おかげさまで第3回をむかえることができました。

今回は、島田病院整形外科科長 吉田 玄医師と城山病院整形外科部長 熊野 穂積医師による演題発表を行い、それぞれが得意とする整形外科診療について、参加された各施設の方々に知っていました。また、患者さまをより的確にご紹介するために、参加した各医師の得意分野や連携方法についてまとめ、情報集を作成しました。

ひとことに整形外科といつても様々な疾患があり、患者さまにあった専門施設で治療をうける事が大切なので、医療者側がそういったシステムを提供しなければならないと考えています。この会をすすめることによって地域の先生方が専門治療のできる施設への紹介が可能となり、患者さまが安心してよりよい整形外科診療を受けることができるようにならうと考えています。今後も南河内圏域の整形外科診療を少しでも良くできるように取り組んでいきます。

島田病院 地域連携課 嶋田 芳彦



スタッフ紹介

大西 敏之 (おおにし としゆき)
Eudynamicsはびきのヴィゴラス トレーナー

生活習慣病や介護予防、スポーツ選手のケガの予防・競技力向上など、あらゆる方に対してより「わかりやすく」をモットーに、時には厳しく、時にはやさしくサポートさせていただいている。

きくぞう君への投書から

ご意見

私は昨年の9月に腰を痛めて20日ほど入院して、その時の主治医が佐竹先生で私とは親子ほど年も違っていましたが、話も気安く出来て大変お世話になりました。その後も今だに2ヶ月に1度通院して、先生の相変わらずの話しぶりや私の話を親身になって聞いて下さり、時々の通院も全々苦にならない次第です。先々月(8月)の時は、私の都合で予約より10分おくれて(これは私の勝手です)しまった時、1時間と少し待ちました。

これも以前に係の人に言われていた事でそれをそうこうと言うのではありません。

やっと呼ばれて先生と会った時先生の第1声が「今日はごめんな、長い事待たせて大変やったな」と言って下さいました。私は「私の勝手で…」とおたがい笑いながら、とてもなごやかな気持ちで帰りました。

先生の性格にもよると思いますが話しにくい先生も人の話できいたりする時代、私は佐竹先生を信頼しています。

66歳 女性

『きくぞう君』はご利用者の声を業務の向上、施設改善に反映させるためのシステムです。
ご意見・ご質問など、お気軽にお寄せください。



回答

丁重なご意見をいただき、恐れ入ります。

まず、治療を行う上では医師、看護師、その他コメディカルを含め治療する側と患者様との信頼関係なければ医療は成立しないと思います。そして薬や注射を出すだけではなく、心の面でもケアをし、信頼することが、治療の効果を高め、リハビリテーション等を頑張ってなされた成果で腰痛もよくなつたのだと思います。

外来の待ち時間については、患者様が予約時間に10分以上遅れた場合は次の予約の患者様の診察に影響するため受付順にて診察させていただいております。我々もできる限り予約時間を守るように心がけていますが、やはり外科である以上、救急処置が必要な方、あるいは手術・入院になる方等長い診察時間が必要になることや診察を中断して救急処置を行う場合があり、予約された方でも診察をお待ちいただく場合があります。また、患者様でも交通事情等でやはり予約時間に遅れることがあるかと思います。そのような場合はできる限り臨機応変に対処しておりますのでご理解ください。

整形外科 医師 佐竹 信爾

島田病院の院内感染防止への取り組み⑯ リンクナースシステムの 具体的方法

感染管理認定看護師 森下 幸子

耐性菌防止の戦略 IV (前回のつづき)

今回は、「続・賢く抗菌剤を使う」をご紹介いたします。

4. 保菌^{※1}に抗菌剤を使用しない。

抗菌剤は、感染症の治療に使用すべきであるつまり何らかの菌が検出されたとしても感染症状のない保菌状態にあるケースについて、抗菌剤を使用すべきではない。

5. バンコマイシンを安易に使うべきではない事を知る。

バンコマイシンを安易に使用することは、耐性菌を発生させ促進させる事である。

1950年に、ペニシリンに耐性を持つブドウ球菌が現れたため、様々な抗菌剤が開発され使用していく結果、1970年にメチシリソに耐性を持つ黄色ブドウ球菌(MRSA)が現れ院内感染が問題になった。その後、MRSA治療薬としてバンコマイシンを使用していると、1990年代にはバンコマイシン耐性腸球菌(VRE)が、2002年に

はついにバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)が報告された。バンコマイシンは、すばらしい抗菌剤であるから、慎重に使い耐性菌を増やさないようにしなければならない。

6. 治療が終わればあるいは否定的な時は治療を終了する。

不必要的抗菌剤の治療をやめる。

例えば、感染症が治癒した時や感染症とはいがたくかつ培養の検査が陰性であった場合、感染ではないと主治医が診断した場合を上げている。いずれも抗菌剤の必要性がなくなれば速やかに抗菌剤治療を終了する事を意味している。

前号から「賢く抗菌剤を使う」についてお話を参りました。抗菌剤は、とても身近で頼りになる薬です。この薬のおかげで人類は助けられてきました。だからこそ、慎重に使わなければ“新型の感染症”が現れた時に、全く抗菌剤の効果がないような結果になつたら…恐ろしいと思います。今も、いろいろな「菌」達は、形や性質を変えて抗菌剤と戦う準備をしていることでしょう。医療側も患者さま側も共に協力して「菌」達の戦いに挑みましょう。

● 次号は最後のカテゴリーである

「感染の伝播を防止する」をご紹介いたします。

(※1) 保菌…明らかな症状はないが、病原菌を保有している状態

はあとto ハート

インフォメーション

＜使命＞

良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

＜職員憲章＞

私たち、その人が
その人らしく自分の人生を全うすることを
心(Heart)と技術(Hands)で支援します

はあとふるグループは、個人の価値観を尊重し、
その人の「自立」や「その人らしく生きること」を支援する
ヘルスケアサービスを提供します。

日 時

テ ー マ

講 師

島田病院 公開講座

会場/老人保健施設悠々亭
地下1階職員食堂

費用/無料

島田病院リハビリテーション課

TEL 0729-52-1590

島田病院 1階総合受付

TEL 0729-53-1001

(受付:平日の9:00~17:00)

2月19日(土)
15:00~16:30

「糖尿病の治療について」

内科医師 植田秀樹
トレーナー 大西敏之

ヴィゴラス教室

参加される方は
予約をお願いいたします。

お申し込み・お問い合わせは
島田病院地下一階
はびきのヴィゴラスまで

TEL/FAX 0729-53-1007

1月 17日(月)
24日(月)
31日(月)
15:00~16:30

「正しく体をひきしめる」

料金:1回ごとに1050円(税込)
対象:ダイエットに取り組もうと思われている方

はびきのヴィゴラス
トレーナー 南舎多枝

2月 9日(水)
16日(水)
23日(水)
19:00~20:30

「ランニング」

料金:1回ごとに1050円(税込)
対象:スポーツ選手ならびに指導者、
スポーツ愛好家

はびきのヴィゴラス
トレーナー 久保田祐介

※ヴィゴラスの有料教室は3回シリーズで開催し、当日の内容は毎回異なります。教室は1回からでもご参加いただけます

●上記のほかに無料教室もございます。

1月……18日(火)転倒予防 20日(木)脚を鍛える 21日(金)正しい姿勢 28日(金)ナンバ歩き

2月……4日(金)変形性膝関節症 10日(木)ウォーキング 15日(火)腰痛

18日(金)女性のための筋力トレーニング 25日(金)股関節のトレーニング

家族介護教室

会場/老人保健施設悠々亭
6階会議室

TEL 0729-53-1003

2月21日(月)

14:00~15:00

暮らしを応援! 権利擁護制度のご紹介

羽曳野市社会福祉協議会
社会福祉士 竹内千幸氏

八尾はあとふる病院

会場/八尾はあとふる病院4階会議室

TEL 0729-99-0725

1月15日(土)

14:00~15:00

<家族介護者教室>

「痴呆症について」

介護サービスセンターはあとふる
介護支援専門員 林惠美子
木山宣代



はあとふるグループ

●医療法人(財團)永広会

島田病院

Tel.0729-53-1001

Eudynamics はびきのヴィゴラス

Tel.0729-53-1007

介護老人保健施設 悠々亭

Tel.0729-53-1002

在宅介護支援センター 悠々亭

Tel.0729-53-1003

ヘルパーステーション 悠々亭

Tel.0729-53-1062

介護サービスセンター ゆうゆう亭

Tel.0729-53-5514

訪問看護ステーション ハートパークはびきの

Tel.0729-53-1004

〒583-0875 大阪府羽曳野市樺山100-1

八尾はあとふる病院

Tel.0729-99-0725

介護サービスセンター はあとふる

Tel.0729-99-8126

〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1

●社会福祉法人 はあとふる

高齢者生活福祉センター ゆうゆうハウス

Tel.0729-31-1616

〒583-0875 大阪府羽曳野市樺山96-10